

スクラム十勝が初のシンポ



連携の意義を強調

今後は年
1回予定

食の安全の活動確認

管内の研究機関が連携して食の安全・安心に関する課題解決を図る「スクラム十勝」の第1回シンポジウムが11日午後1時半から、帯広畜産大学講堂で開かれた。参加機関の食の安全に対する取り組みを紹介、お互いの理解を深めた。(田島工幸)

帯広畜産大学、北海道道立十勝農業試験場、十勝圏振興機構食品加工技術センターの5つの研究機関で3月に設立していた。

食の安全・安心のさまざまな課題の解決を目指すスクラム十勝の第1回シンポジウム

帯畜大の鈴木直義学長が「各機関の持てる力を結集して世界に研究成果

を発表できるようにしたい」とあいさつ。同大の長澤秀行副学長が「地域経済への寄与、人材育成が大きな目標にある。スクラムを組むことでより効果的な取り組みを」と連携の意義を述べた。

各参加機関が食に関するこれまでの取り組みを報告。北農研の渡辺治郎畑作研究管理官は「安全・安心な持続的農業を行うための研究では、化学農薬を使わない、微生物農薬の開発を進めている」などと述べた。

この後、来場者との意見交換会も行われた。今後はシンポジウムを年1回のペースで開催していく予定。